科　目　名	現代の国語１			単位数	1	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	新編　現代の国語　改訂版 （大修館書店）		
履　修　の　条　件	前期(４月～９月)のみ開講。 引き続き「現代の国語２」を履修すること。						
先生からの アドバイス	中学校での学習に引き続き、国語で適切かつ効果的に表現する力を身につけ、伝え合う力を高めます。 社会生活で必要な国語の力を中心に学習し、社会人になった皆さんが充実した生活が送れるようになることを目標にしています。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	記述の点検	◎		
	ワークシート	○	○	
	行動の観察	○		○

学期	月	学習内容（単元名）	評　価　規　準		
前期	4	「言葉をひらく」 「この春、なにを始めよう」	・話や文章の中で使うことを通し、語彙を豊かにしている。 ・表現の特色をふまえ、読み手に対して正確でわかりやすい伝え方を理解している。 ・話や文章の効果的な組み立て方について理解している。	・話や文章の内容や構成を的確にとらえて、伝えたいことを把握している。 ・主張が読み手に正しく伝わるように、表現の仕方を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、聞きとった情報を整理している。	・筆者の主張を読み取ることに前向きに取り組もうとしている。 ・言葉の使い分けに積極的に取り組もうとしている。 ・順序や表現などに注意して読もうとしている。 ・正確に聞いたり、必要な情報を聞き取ったりしようとしている。
	5	「日本語を使いこなす」 ・声を意識しよう ・正しく書こう 定期考査　①			
	6	・文を整え、文をつなぐ			
	7	定期考査② 「人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか」			
	9	・絵や写真を説明しよう 聞く力・話す力を育む ・聞き取りのレッスン			
後期	10				
	11				
	12				
	1				
	2				
	3				

科　目　名	現代の国語2			単位数	1	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	新編　現代の国語　改訂版 (大修館書店)		
履　修　の　条　件	前期(4月～9月)のみ開講。 「現代の国語1」を履修した後、引き続き履修すること。						
先生からの アドバイス	「現代の国語1」の学習に引き続き、言語感覚を磨き、進んで表現することによってさらなる国語力の向上を目指します。 社会生活で必要な国語の力を中心に学習し、社会人になった皆さんが充実した生活が送れるようになることを目標にしています。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	記述の点検	◎		
	ワークシート	○	○	
	行動の観察	○		○

学期	月	学習内容（単元名）	評　価　規　準		
前期	4	ことばをひらく ・コミュニケーションは技術だ	・文章の効果的な構成や表現について理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割をふまえ、正確さやわかりやすさに配慮した表現を理解している。 ・主張と論拠など情報の関係について理解している。	・文章の種類をふまえ、内容や構成などから要点を理解している。 ・情報を取捨選択し、読み手にわかりやすい文章の構成を工夫している。 ・伝えたいことを共有し、考えを広げたり深めたりしながら、場面に応じて話し合い方を工夫している。	・順序や表現などに注意して読もうとしている。 ・目的や読者を意識して、わかりやすい説明を書こうとしている。 ・話を引き出す工夫をしながら聞こうとしている。 ・よりよい話し合いになるよう意識しながら、積極的に話し合いに参加している。
	5	わかりやすく説明する ・生きることと食べることの意味			
		定期考査　①			
	6	聞く力をはぐくむ ・ミニインタビューをしよう			
	7	定期考査　②			
		論理を読み取る			
	9	・水の東西 伝え合いのレッスン ・テーマを決めて話し合おう			
後期	10				
	11				
	12				
	1				
	2				
	3				

科　目　名	現代の国語			単位数	2	履修区分	必　履　修
対　象　の　部			夜間部	使用教科書 教　材	新編　現代の国語　改訂版 （大修館書店）		
履　修　の　条　件							
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	中学校での学習に引き続き、国語で適切かつ効果的に表現する力を身につけ、伝え合う力を高めます。 社会生活で必要な国語の力を中心に学習し、社会人になった皆さんが充実した生活が送れるようになることを目標にしています。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	記述の点検	◎		
	ワークシート	○	○	
	行動の観察	○		○

学期	月	学習内容（単元名）	評　価　規　準		
前期	4	ことばの学びに向けて 「変わることを楽しもう」	・話や文章の中で使うことを通し、語彙を豊かにしている。 ・表現の特色をふまえ、読み手に対して正確でわかりやすい伝え方を理解している。 ・話や文章の効果的な組み立て方について理解している。	・話や文章の内容や構成を的確にとらえて、伝えたいことを把握している。 ・主張が読み手に正しく伝わるように、表現の仕方を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、聞きとった情報を整理している。	・筆者の主張を読み取ることに前向きに取り組もうとしている。 ・言葉の使い分けに積極的に取り組もうとしている。 ・順序や表現などに注意して読もうとしている。 ・正確に聞いたり、必要な情報を聞き取ったりしようとしている。
	5	日本語を使いこなす ・ことばの使い分け			
		定期考査　①			
	6	・文を整え文をつなぐ			
	7	分かりやすく説明する 「人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか」			
		定期考査　②			
	9	・絵や写真を説明しよう 聞く力をはぐくむ ・聞き取りのレッスン			
後期	10	論理を読み取る 「オカピの胃袋はいくつか」	・話や文章の内容のつながりを理解している。 ・表現の特色などをふまえて、正確で読み手を配慮した伝え方を理解している。 ・情報の取捨選択のしかたについて理解している。 ・実践を通して語彙を豊かにしている。 ・基本的な修辞について理解し、活用することができている。	・文章の種類から表現の特色を理解し、要点を把握している。 ・読み手の理解が得られるように文章の構成などを工夫している。 ・目的に応じて情報を相互に関連付けながら自分の考えを深めている。 ・意見を引用して批評する活動を通し、自分の考えを深めている。	・論理展開をとらえようとしている。 ・相手や場面を意識しながら対話に取り組もうとしている。 ・理由を明確に示しながら意見文を書こうとしている。 ・文章や図などから必要な情報を読み取ろうとしている。 ・筆者の主張を読み取って、自分の考えを積極的に深めようとしている。
		定期考査　③			
	11	伝え合いのレッスン ・対話のレッスン			
	12	説得力を高める ・意見文の基礎を学ぼう			
	1	情報と向き合う 「情報の力関係」			
		定期考査　④			
	2	他者を動かす ・魅力的な企画書を書こう			
	3	社会に向けて ・自分の考えを深めながら読もう 「何のために『働く』のか」			

科　目　名	言語文化１			単位数	1	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	新編　言語文化　改訂版 (大修館書店)		
履　修　の　条　件	後期(１０月～３月)のみ開講。 引き続き、「言語文化２」を履修すること。						
先生からの アドバイス	中学校の学習に引き続き、現代文、古文、漢文などさまざまな文章を読みます。日本古来の文化や言葉にふれ、豊かな視点を身につけましょう。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使おうとしている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたって国語を尊重し、その能力の向上を図る態度を養おうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	記述の点検	ー	○	◎
	ワークシート	○	◎	○
	提出物	ー	ー	○
	小テスト・定期テスト	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4				
	5				
	6				
	7				
	9				
後期	10	ことばと出会う 「言葉の森を育てよう」	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	・言葉についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日常使っている言葉を見つめ直そうとしている。 ・古文を読むことに興味をもち、積極的に読み慣れようとしている。 ・漢文に興味をもち、訓読に意欲的に取り組んでいる。
		定期考査　③			
	11	古文に親しむ 「いろは歌」 漢文に親しむ「訓読のきまり」			
	12	表現を味わう 「水かまきり」			
	1	随筆を楽しむ① 「高名の木登り」			
		定期考査　④			
	2	現代にいきることば 「五十歩百歩」			
	3	随筆を楽しむ② 「春はあけぼの」			

科　目　名	言語文化2			単位数	1	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	新編　言語文化　改訂版 (大修館書店)		
履　修　の　条　件	後期(10月～３月)のみ開講。 「言語文化１」を履修した後、引き続き履修すること。						
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	言語文化１に続き、古典から現代に至るさまざまな文章を読みます。それらを深く学び、実生活に活かすことで人生を豊かにしていきましょう。						

評　価　の　観　点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使おうとしている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたって国語を尊重し、その能力の向上を図る態度を養おうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　記述の点検	ー	○	◎
評価方法　ワークシート	○	◎	○
評価方法　提出物	ー	ー	○
評価方法　小テスト・定期テスト	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4				
	5				
	6				
	7				
	9				
後期	10	物語を受け継ぐ 「羅生門」 「筒井筒」 定期考査　③	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文の中で使えている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。	・作品に興味をもち、文章の展開や和歌の内容、登場人物の心情を読み取ろうとしている。 ・漢文に興味をもち、その知恵や教訓を積極的に読み取ろうとしている。 ・四季の詩歌を読むことに興味をもち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。
	11	古人に学ぶ 「学問のすすめ」 「社会に生きる」			
	12	旅への思い 「門出」			
	1	漢文を楽しむ 「完璧」 定期考査　④			
	2	近代文学に触れる 「夢十夜」			
	3	詩歌の調べ 「春のうた／夏のうた／秋のうた／冬のうた」			

科　目　名	言語文化			単位数	2	履修区分	必　履　修
対　象　の　部			夜　間　部	使用教科書 教　材		新編　言語文化　改訂版 (大修館書店)	
履　修　の　条　件							
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	中学校の学習に引き続き、現代文、古文、漢文などさまざまな文章を読みます。日本古来の文化や言葉にふれ、豊かな視点を身につけましょう。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使おうとしている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたって国語を尊重し、その能力の向上を図る態度を養おうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	記　述　の　点　検	◎	ー	ー
	ワ　ー　ク　シ　ー　ト	○	○	ー
	小テスト・定期テスト	○	ー	○

学期	月	学習内容（単元名）	評　価　規　準		
前期	4	「言葉の森を育てよう」 「季節の言葉と出会う」	・文章の効果的な構成や表現について理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割をふまえ、正確さやわかりやすさに配慮した表現を理解している。 ・主張と論拠など情報の関係について理解している。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
	5	「水かまきり」 定期考査　①			
	6	「とんかつ」			
	7	定期考査　② 「一瞬の風になれ」			
	9				
後期	10	「ほどほどのデザイン」 「羅生門」	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文の中で使えている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。	・作品に興味をもち、文章の展開や和歌の内容、登場人物の心情を読み取ろうとしている。 ・漢文に興味をもち、その知恵や教訓を積極的に読み取ろうとしている。 ・四季の詩歌を読むことに興味をもち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。
	11	定期考査　③ 「ことばは光」			
	12	「コルベ神父」			
	1	「十二の「子」の文字」 「徒然草」 定期考査　④			
	2	「枕草子」 「奥のほそみち」			
	3	「漢文に親しむ」			

科　目　名	論理国語			単位数	3	履修区分	自由選択
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材		新編　論理国語 （大修館書店）	
履　修　の　条　件	「現代の国語２」「言語文化２」と同時に履修、または「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。						
先生からの アドバイス	実社会に必要な国語の知識や技能を学ぶことを目的としています。他者との関わり合いの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を身につけましょう。						

評　価　の　観　点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に着けている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高め、自分の考えを深めることができる。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他社や社会にかかわろうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　定期テスト	◎	○	―
評価方法　ワークシート・提出物	○	○	○
評価方法　授業への取り組み	○	○	◎
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	論理と出会う 「論理的な人」とはどういうひとか	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量をまし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解を深める。文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	・論理の本質について筆者の考えを読み取ることに興味をもち、論知的に考える力を伸ばそうとしている。 ・メディアについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、具体と抽象の関係を捉えようとしている。 ・デジタル社会についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係を捉えようとしている。 ・小論文を書くことに興味をもち、自分の考えを主張するための適切な構成の仕方を理解しようとしている。
	5	具体と抽象 ウサギの耳はなぜ長い			
		定期考査　①			
	6	対比をとらえる デジタル地図から見える世界			
		定期考査　②			
	7	主張をつかむ 考える葦であり続ける			
	9	論理的に書く 小論文① 根拠をふまえて主張を書こう			
後期	10	レポートを書く レポートを書くまとめよう	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	・「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	・レポートを書くことに興味をもち、集めた情報の適切な整理の仕方を理解しようとしている。 ・美についての筆者の主張に興味をもち、筆者の主張を支える根拠や論拠を捉えようとしている。 ・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較を通して自分の考えを広げようとしている。 ・政治についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会についての自分の考えを広げようとしている。 ・エネルギー問題についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げようとしている。
		定期考査　③			
	11	思考を深める ミロのヴィーナス			
	12	視点を変えて 人類の進化から考える「心」の誕生			
	1	現代を考える 政治の本質			
		定期考査　④			
	2	未定に目を向けて エネルギー耕作型文明への転換			
	3	社会に向かって 自己推薦書を書こう 小論文②			

科　目　名	文学国語			単位数	4	履修区分	自由選択
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	新編　文学国語　改訂版 （大修館書店）		
履　修　の　条　件	「現代の国語2」「言語文化2」を履修した後に履修すること。						
先生からの アドバイス	社会生活で必要な国語の知識や技能を学び、言語文化に対する理解を深めることを目的としています。深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わり合いの中で自分の思いや考えを深める力を身につけましょう。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	「書くこと」「読むこと」において、深く共感したり豊かに想像したりするカや、創造的に考えるカを伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉を通じて他者や社会に積極的に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	定期テスト	◎	○	ー
	ワークシート・提出物	○	○	○
	授業への取り組み	ー	○	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	1 少なくとも最後まで歩かなかった（随筆） 2 魅力を言葉で表そう（書く）	・情景や心情を表す語句を文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深めている。 ・文学的な文章の文体の特徴や表現技法について、体系的に理解し使っている。	・文学的な文章を書くために、情報を集め、整理して表現したいことを明確にしている。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解している。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確にとらえている。	・情景や心情を表す語句を文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしようとしている。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深めようとしている。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解しようとしている。
	5	3 ナイン（小説） 定期考査　①			
	6	4 星取り（古文） 5 晴れた空の下で（小説）			
	7	定期考査　②			
	9	6 永訣の朝（詩） コスモス（詩）			
後期	10	7 山月記（小説） 8 かぐや姫の昇天（古文）	・情景や心情を表す語句を文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深めている。 ・文学的な文章の文体の特徴や表現技法について、体系的に理解し使っている。	・読み手が関心を持てるように、文章の構成や展開を工夫している。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価し、内容を解釈している。	・情景や心情を表す語句を文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしようとしている。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深めようとしている。 ・読み手が関心を持てるように、文章の構成や展開を工夫している。
		定期考査　③			
	11	9 神去なあなあ日常（小説） 10 その日東京駅五時二十五分発（小説）			
	12	11 エッセイを書こう			
	1	定期考査　④			
	2	12 源氏物語（古文） 13 こころ（小説）			
	3	14 さくら日和			

科目名	国語表現１			単位数	２	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	国語表現 改訂版 (大修館書店)		
履修の条件	「現代の国語２」「言語文化２」と同時に履修、または「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。引き続き「国語表現２」を履修すること。						
先生からのアドバイス	教科書に沿って「伝え合う力」を身につけます。 文章の作者と向き合ったり、講座受講者と話し合ったりして、伝わるようにするにはどうしたらよいかを考えていきます。演習科目ですので、たくさん読んで、たくさん書いて、たくさん話して、たくさん考えます。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や共感・想像する力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わり合いの中で伝え合う力を高めている。 自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉が持つ価値を理解しようとしている。 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法 定期テスト	◎	○	ー
評価方法 ワークシート・提出物	○	○	○
評価方法 授業への取り組み	ー	○	○
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	や 言葉と表記 書 整った文を書く 話聞 相手に応じた言葉遣い	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、実用的な文章などの種類や特徴について理解を深めようとしている。 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やそうとしている。
	5	書 わかりやすい文を書く 書 文のつなぎ方 定期考査 ①			
	6	書 実践トレーニング① 話聞 自己紹介ゲーム			
	7				
		定期考査 ②			
	9	話聞 【表扉】意図理解の難しさ 書 絵や写真を見て書く 書 マイニュース記事を書こう			
後期	10	話聞 【読書】宝探しみたいに 話聞 【読書】想像力の世界	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やしている。 ・実用的な文章などの種類や特徴について理解を深めること。 ・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やしている。 ・実用的な文章などの種類や特徴について理解を深めること。 ・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。	・省略や反復などの表現の技法について理解を深め積極的に使おうとしている。 ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、情報を収集、整理しようとしている。 ・自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すしようとしている。
		定期考査 ③			
	11	書 小論文とは何か 書 反論を想定して書く 書 文章を読み取って書く			
	12	書 【表扉】「再生」は日常生活から 書 【表扉】時代の気分、言葉の温度			
	1	書 【表扉】藤井新棋聖 書 統計資料を読み取って書く			
		定期考査 ④			
	2	書 自分を見つめて 話聞 効果的な自己PR 書 将来の自分を考えよう			
	3	書 志望理由を書こう 書 自己推薦書や学修計画書を書く 話聞 面接にチャレンジ			

科　目　名	国語表現2			単位数	2	履修区分	自由選択
対　象　の　部	午前部	午後部		使用教科書 教　材	国語表現　改訂版 (大修館書店)		
履　修　の　条　件	「現代の国語２」「言語文化２」と同時に履修、または「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。「国語表現１」に引き続いて履修すること。						
先生からの アドバイス	教科書に沿って「伝え合う力」を身につけます。 文章の作者と向き合ったり、講座受講者と話し合ったりして、伝わるようにするにはどうしたらよいかを考えていきます。演習科目ですので、たくさん読んで、たくさん書いて、たくさん話して、たくさん考えます。						

評　価　の　観　点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や共感・想像する力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わり合いの中で伝え合う力を高めている。 自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉が持つ価値を理解しようとしている。 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　定期テスト	◎	○	―
評価方法　ワークシート・提出物	○	○	○
評価方法　授業への取り組み	―	○	○
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	書　通信文を書き分ける 話聞　電話を使いこなす 書　電子メールを活用しよう	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。 ・言葉を伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。	・論点を明確にして話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。 ・視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。	・言葉を伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けようとしている。 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。
	5	話聞　ネット社会との付き合い方 書　ネットを活用した情報収集 定期考査　①			
	6	書　メディアと情報 話聞　〃			
	7				
	9	定期考査　② 話聞　相手や場面に応じた会話 話聞　建設的な議論の進め方 話聞　スピーチをしよう			
後期	10	話聞　プレゼンテーションの工夫 話聞　【読書】ビブリオバトルをしよう 話聞　【読書】リーダーズシアターを開こう 定期考査　③	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実用的な文章などの構成や展開の仕方などについて理解を深めること。 ・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。	・互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	・論点を明確にして話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 ・互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	11	話聞　【表扉】話すときのツボ 話聞　【表扉】全体の構造を意識して説明する 話聞　【表扉】間の大切さ			
	12	書　言葉で遊ぶ 話聞　無人島で生き残れ			
	1	書　日常生活の正しい過ごし方 書　魅力的なポスターを作ろう 定期考査　④			
	2	書　「わが町自慢」のパンフレット作り 話聞　働く人にインタビュー 書　たほいやゲームをしよう			
	3	書　みんなで作ろう国語辞典 書　「私の虫類図譜」を作ろう 書　エッセイを書こう			

科　目　名	国語常識			単位数	2	履修区分	自由選択
対　象　の　部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教　材	アライブ国語常識 (浜島書店)		
履　修　の　条　件	「現代の国語２」「言語文化２」と同時に履修、または「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。						
先生からの アドバイス	漢字、語句、作文など、高校生として必要な国語常識を教科書やプリントを使って学習します。就職、進学に際してはもちろん、社会に出てからも役立つ内容です。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	実社会における他者との多様なかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしてる。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたって国語を尊重し、その能力の向上を図る態度を養おうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	ー	○	◎
評価方法　ノート・ワークシート	○	◎	○
評価方法　提出物	ー	○	○
評価方法　小テスト・定期テスト	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	基本編 漢字の読み書き（５級） 同訓異字　同音異義語	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解している。 ・主な常用漢字を書き、文章の中で適切に用いている。	・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるように、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、効果的に伝わるように表現の仕方を工夫している。	・積極的に学習に取り組み、辞書などを使って語彙を増やそうとしている。 ・進路や社会生活に生かすことを意識しながら課題に取り組もうとしている。
	5	表現編 原稿用紙の使い方 定期考査　①			
	6	意見文を書く 表現編 敬語の基本			
	7	定期考査　② 必修語			
	9	漢字の読み書き（4級） 表現編 自己分析			
後期	10	標準編 漢字の読み書き（３級） 同訓異字　同音異義語 定期考査　③	・自分の思いや考えを表現するために必要な語彙を増やし、相手との関係や状況、場面に応じて適切に用いている。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 ・相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて適切に応対をしている。	・志望進路について意欲的に調べたり整理したりしようとしている。 ・意欲的にロールプレイを行い、適切な電話対応について積極的に学ぼうとしている。
	11	表現編 志望動機 履歴書を書く			
	12	面接試験対策			
	1	応用編 漢字の読み書き（準２級） 定期考査　④			
	2	表現編 手紙の書き方			
	3	表現編 電話・メールの使い方			

科目名	実用漢字			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	常用漢字オールクリア (尚文出版)		
履修の条件							
先生からのアドバイス	実社会に出て対応できる漢字力を身につける授業です。また、就職時に必要な漢字検定合格などを目標に学習します。授業形態は、テキストを自学自習して小テストを受け、合格すれば次の級に進める形です。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		漢字を正確に書くことができる。 漢字を正確に読むことができる。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	漢字の意味を理解し、漢字を使用して、適切な文章を表現することができる。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	漢字学習を通して、漢字に興味を持つとともに、自ら進んで学ぼうとしている。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	○	○	◎
	提出物	○	○	◎
	定期考査	◎	◎	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	オリエンテーション 漢検書き取り(7級レベル)	・7級レベル、6級レベルの課題の漢字をきちんと読むこと、書くことができる。5級レベル、4級レベルの漢字をきちんと読むこと、書くことができる。	・漢字の意味をきちんと理解し、適切な文章を表現することができる。 ・部首名、部首の役割が理解できている。	・漢字学習を通して、漢字に興味を持つとともに、自ら進んで学ぼうとしている。 ・7級レベル、6級レベルの漢字を、課題を自学自習することでクリアする。 ・5級レベル、4級レベルの漢字を、課題を自学自習することでクリアする。
	5	漢検書き取り(6級レベル)			
	6	漢検書き取り(部首・部首名)			
	7	定期考査 ②			
		漢検書き取り(5級レベル)			
	9	漢検書き取り(4級レベル)			
後期	10	漢検書き取り(対義語・類義語)	・対義語、類義語、四字熟語を、正確に読むこと、書くことができる。 ・3級レベル、準2級レベルの漢字をきちんと読むこと、書くことができる。	・漢字の熟語構成、四字熟語、対義語、類義語の意味を学び、適切な文章を表現することができる。	・漢字学習を通して、漢字、熟語に興味を持つとともに、自ら進んで学ぼうとしている。 ・3級レベル、準2級レベルの漢字を、課題を自学自習することでクリアする。
	11	漢検書き取り(3級レベル①)			
	12	漢検書き取り(四字熟語)			
	1	漢検書き取り(3級レベル②)			
		定期考査 ④			
	2	漢検書き取り(準2級レベル①)			
	3	漢検書き取り(準2級レベル②)			

科目名	短歌・俳句		単位数	1	履修区分	自由選択
対象の部		午後部	使用教科書 教材	今はじめる人のための俳句歳時記　新版 (KADOKAWA出版)		
履修の条件	「現代の国語２」「言語文化２」と同時に履修、または「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。 履修可能人数最大３０名。					
先生からのアドバイス	短歌や俳句の歴史を勉強したり、自作の短歌・俳句の合評会をします。先人がどのような思いで、短歌や俳句を作ったかを勉強したり、作品に触れることで、自分の短歌や俳句も自由に作れるようになっていきます。					

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって詩歌に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　記述の点検	◎		
評価方法　ワークシート	○	○	
評価方法　行動の観察	○		○
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	短歌とは何か 短歌創作の手順	・短歌の創作に必要な字数について、季節の表現などの基礎的な知識を学ぶ。 ・短歌の創作に必要である基礎的な知識を学び、短詩形文学を理解している。	・創作のきまりを理解し、創作、鑑賞を通して季節感や言語感覚を磨いている。 ・季節や場に応じた言葉を選び、自分の感動したことを表現している。	・意欲的に創作に取り組み、言葉に対する感覚を養い、日本語の美しさを学ぼうとしている。
	5	定期考査　①			
	6	短歌創作① 歌会			
	7	短歌創作②			
		定期考査　②			
	9	短歌創作③ 学期末作品提出			
後期	10	俳句とは何か 俳句創作の手順	・俳句の創作に必要な字数について、季節の表現などの基礎的な知識を学ぶ。 ・俳句の創作に櫃用である基礎的な知識を学び、韻文の特徴を理解している。	・創作のきまりを理解し、創作、鑑賞を通して季節感や言語感覚を磨いている。 ・季節や場に応じた言葉を選び、自分の感動したことを表現している。	・意欲的に創作に取り組み、言葉に対する感覚を養い、日本語の美しさを学ぼうとしている。
		定期考査　③			
	11	俳句創作① 句会			
	12	俳句創作② コンクール応募			
	1	俳句創作③ 句会			
		定期考査　④			
	2	俳句創作④ 学期末作品提出			
	3	１年間のまとめ			

科　目　名	名作鑑賞			単位数	2	履修区分	自由選択
対　象　の　部		午後部	夜間部	使用教科書 教　材	新総合　図説国語 (東京書籍)		
履　修　の　条　件	午後部：「現代の国語２」「言語文化２」を履修した後に履修すること。 夜間部：「現代の国語」「言語文化」を履修した後に履修すること。						
先生からの アドバイス	名作に表れる、人間や社会、自然などに対するものの見方、世界のとらえ方を読み取ることで、思考力を伸ばし豊かな心を身につけましょう。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	小説読解の基本技術を学び、それを用いて、小説の構造、主題をつかみ、段落の要約や要旨のまとめを行う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	小説について、描写や比喩、象徴などの細部から登場人物の心理の変化を捉える。思考力や想像力を養い、言語感覚や語彙力を向上を目指す。 A評価：定期考査の正答率80%以上。学んだことを自分の言葉で論理的に表現できている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。学んだことを口頭や文章で表現できている。 C評価：Bに到達していない。	名作鑑賞を通して、小説に興味を持つと同時に、自ら進んで学ぼうとしている。言葉を通して伝え合う力を獲得する。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	ー	○	◎
評価方法　提出物	○	ー	○
評価方法　定期考査	◎	○	ー
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	オリエンテーション 古事記 万葉集	・古典の読解に必要な、基礎的な知識を学び、古典における表現技法の効果を理解し、情緒を身につける。 ・場面における状況を整理し、筆者の考え方を理解した上で、作品の魅力を捉える。 ・「視点」や「語り」に着目して、登場人物の設定がどのようになされているか、小説のテーマを読み取る方法を身につける。	・論点を明確にして話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。 ・視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。	・名作鑑賞を通して、視野を広げられる感動や文学の魅力に気づく。 ・「自分」がどのように生み出されるのか、他者との関係性から変容する「アイデンティティ」について身近な事例をもとに考える。 ・歴史が内包する、誰もが認める客観的な事実と、物語れた過去とを比較して捉える。
	5	大正の文学 清兵衛と瓢箪 定期考査　①			
	6	こころ 羅生門			
	7	竹取物語 定期考査　②			
	9	枕草子 今昔物語集 徒然草			
後期	10	明治の文学 舞姫 たけくらべ 定期考査　③	・物語の内的・外的条件を読み込む。物語の展開を把握し、叙述の展開に沿って変化していく主人公を読み取る。 ・詩や短歌に詠み込まれた情景や作者の心情を読み取り、生涯にわたる社会生活に合わせて適切に使うことができる。 ・史記を読解しながら、多彩な人物の描写や思想を味わうと同時に、人間・社会・自然などに対する筆者の思想、考え方を理解する。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で自分の考えを深める。	・進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。 ・様々な考えを受容し、多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断をするように努力する。 ・伝統的な言語文化及び、音声、文法、表記、語句や語彙、漢字などについて理解し、知識を身につけられるように進んで学ぼうとしている。
	11	昭和・平成の文学 詩歌 二十億光年の孤独			
	12	サラダ記念日 山月記			
	1	人間失格 キッチン 定期考査　④			
	2	漢文 論語 唐詩			
	3	人物史・思想			